

8組(難聴学級) 自立活動の実践

1. 単元名 きょうりゅうじてんをつくろう

2. 単元の目標

○興味のあることを追究することで、学習意欲を高めるとともに、自分に対する自信をつけることができる。(心理的な安定)

○相手意識をもって学習に取り組もうとする。(人間関係の形成)

○状況によって自分の聞こえ方に違いがあることに気づく。(環境の把握)

○言葉を豊かにするとともに、多様な手段で相手に自分の考えや思いを伝えることができる。

(コミュニケーション)

3. 学習活動について

(1) 児童について

(省略)

(2) 単元について

自立活動は「個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識、技能、態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達的基础を培う。」ことを目標とし、6区分27項目の内容がある。自立活動は、活動内容を児童の実態に応じて選択し、具体的な活動を決定していくものである。

本児が、自立した社会生活をするためには、難聴である事実を肯定的に受け入れ、自分に自信をもって生活できるように支援することが重要である。そのため、現時点においては、自分の良さを自覚できるような活動を組むとともに、周囲と良好な信頼関係を築くように働きかける必要がある。

本単元では、「2心理的な安定(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関すること」、「6コミュニケーション(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関すること」を主なねらいとして活動を設定する。中心となる活動は、本児が興味をもっている恐竜についての取組だが、入学して日が浅い時点なので、指導者や交流学級児童との信頼関係が深まるような働きかけも欠かせない。

(3) 指導にあたって

○研究の視点（１）

学ぶことに興味や関心をもち、課題解決への見通しをもって学習に取り組めば、自分の思いや考えをもち、主体的に学習に関わろうとする子が育つであろう。

【① 教材・学習課題との出会いの場の工夫】

本単元では、まず、本児から恐竜の話をじっくり聞きながら本児のイメージする事典を書かせる。その後、教師がロイロノート（授業支援アプリ）で作成したサンプルを示し、「タブレットを使ってきょうりゅうじてんを作って、1年1組にしょうかいしよう」と投げかける。

自分が興味をもっていることを中心課題にし、それを深める学習活動を取り入れることは、主体的な学びや満足感、達成感をもたせることになると考え。また、サンプルによって具体的な活動イメージとゴールの見通しをもたせることで、学習意欲を喚起できるものと思う。

【② ねらいや学習課題、学習の流れの明確化】

本学級の自立活動「にこにこタイム」では、年間を通して、「歌、詩、ふりかえり」などを学習活動に取り入れている。そのため、モジュール的な学習過程になっている。それが、本児にとってはリズムのある見通しのもちやすい活動になっている。

「歌、詩、ふりかえり」は、主に「コミュニケーション」をねらいとしていて、本児の聞き方や話し方、言葉のイメージを意識しながら指導にあたるようにする。

「きょうりゅうじてん」については、項目ごとのリストを作り、それをロイロノートのファイルにする。そのことで、自分がしている活動の到達度がわかり、完成の見通しがもてるものと思われる。

【③ まとめや自己評価・相互評価による振り返りの場の設定】

「きょうりゅうじてん」では、毎時どのファイルを作るかを決めてから取りかかることにする。そして、本児には「今日、良かったことやがんばったこと」を話させ、じてん作りの達成具合や取り組み方などを振り返るようにする。また、次時の予定を本児と相談して決めることにする。教師は、本児の話を聞きながら、本児の良さを伝え、次時の見通しをもたせるようにする。こうした評価をすることで本児の励みや自信につなげたい。

単元末では、交流学級で発表する場を設ける。そして、交流学級児童から感想を話してもらい、本児の満足感を充足させるとともに、人前で発表する楽しさを味わうことで他の活動につなげていきたい。

○研究の視点（２）

子ども自身の思考や表現に結びつくような学習の場（学習プロセス）を工夫すれば、お互いの思いや考えを共有し合い、さらに深めていこうとする子が育つであろう。

【① 個人思考を深める手立てや位置づけの工夫】

本児は、恐竜に興味をもっており、恐竜についての知識が豊富である。そして、ひとたび恐竜について話し出すと、話が広がっていく傾向がある。本単元では、自分の知識を「じてん」

としてまとめることで、観点を整理し、短い言葉で表現したり、相手にわかりやすい伝え方を意識したりできると考える。このような取組が知識の再構築であり、本単元で培った力が他の学習にも生かされていくと考える。

○研究の視点（3）

情報活用の視点を明確にし、学習の中で児童がICTを活用する場を設定すれば、課題解決に向けて思考・判断し、表現する力が育つであろう。

【① 情報収集・整理分析場面でのタブレット端末の利用】

本単元では、主にロイロノートを使用する。ロイロノートでは、「きょうりゅうじてん」の項目ごとにファイルを作成する。完成したファイルは、リンクの仕方を工夫することで、事典のように紹介したり、なぞなぞやクイズとして発表したりすることができる。つまり、ファイルのつなげ方を考えることで、本児の思考・判断・表現する力を培うことができると考えた。また、文字の出力について、本児が、かな書字の難しい現段階では、タブレットのかな入力ボードを利用した方が早く見栄えよく出力できるので、効果的だと考えた。

4. 本単元で身につけたい力

- ・自分の知識を整理し、表現する力

5. キャリア教育の視点

- ・自分の好きなことを発見し、追究する力を育てる。（自己理解）

6. 指導計画と評価計画（全16時間・本時10/16、◎は主活動の評価規準）

次	時	主な学習活動	評 価				主な評価規準（評価方法）
			心理	人間	環境	コミ	
一 つ か む	1	1. 今月の歌 2. ことばのアルバム 3. ぶりがえり 4. きょうりゅうじてん ・自分が興味をもっていることを話す。（恐竜の話をし、絵や文字で説明する。）		○	○	◎	<今月の歌> ・CDの音に合わせ、口形を意識しながら歌おうとしている。（行動観察） <きょうりゅうじてん> ・問われていることに答え、話をつなげている。（発言）
	2	・ロイロノートで作った事典のサンプルを見て、「きょうりゅうじてん」作成の意欲を高める。	◎		○		<ことばのアルバム> ・言葉に気をつけながら音読をする。（行動観察） <きょうりゅうじてん> ・ロイロノートに関心を示し、自分が発表するイメージをもつ（行動観察）

目まとめる	3 3 1 3 (本時10時)	1. 今月の歌 2. じつばのアルバム 3. ふうりかえり	4. きょうりゅうじてん ・リストを見ながら「きょうりゅうじてん」のファイルを作る。	◎	○	○	◎	<ふうりかえり> ・状況によって聞こえやすさが違い、「もう一度言ってください」などの要求が必要なことがわかる。(行動観察) <きょうりゅうじてん> ・タブレットを使ってかな入力ができる。(行動観察) ・恐竜についての知識が豊富になることに満足している(行動観察)
	1 4		・「きょうりゅうじてん」の発表方法を考える。 (国語) 交流学級で「きょうりゅうじてん」の発表をする	◎			◎	<きょうりゅうじてん> ・みんなの聞き方を考えて発表しようとしている。(発言)
	1 5		・発表したことをふうり返る。	◎				◎

7. 本時の学習

(1) 目標

○見通しをもって、意欲的に「きょうりゅうじてん」を作ろうとする。(心理的な安定)

(2) 展開

	学習活動と予想される児童の反応	教師の支援 (○) 評価 (【 】) ICT活用
つかむ 考える	1. 今月の歌を歌う。 2. 創作詩「てるてるぼうず」の音読をする。 3. 交流学級での学習の振り返りをする。 4. 「きょうりゅうじてん」を作る。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> 今日作るファイルを決めて「きょうりゅうじてん」を作ろう。 </div>	○□形を意識して歌うよう働きかける。 ○情景や人物の心情が共有できるように話しかける。 ○声量が調節できるように「声のものさし」を意識させる。 ○学習中の想起ができるよう、具体的な場面を取り上げながら、本児の話を聞く。 ○じてんリストを使って、本時に作る予定のファイルを選ばせ、見通しをもたせる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> ○タブレット端末を用いて、文字を入力したり、絵を描いたりして発表するファイルを作る。(ロイロノート・スクール) </div>

深 め る	5. (1種類の恐竜についてのファイルができた時) ファイルに合わせ、じてんの発表をする。	○本児が作ろうとしている内容を図鑑で確かめることで、本児の知識の豊富さをほめ、意欲的にファイルを作るようにする。 【心理的な安定】 ・恐竜について知っていることを話しながらファイルを作る。(発言)
	6. 本時の振り返りをする。	○夢中で作ったファイルを言わせ、その取り組み方をほめて、次の時間のファイル作りの意欲をもたせる。

(3) 評価

評価の観点	十分満足と思われる児童の姿	おおむね満足と思われる児童の姿	支援が必要と思われる児童への手立て
心理的な安定	・事典的な知識から話を広げてファイルを作る。	・恐竜について知っていることを話しながらファイルを作る。	・行き詰まった場合には、図鑑の一部を引用するよう促してファイルを作る。

(4) 研究の視点

- ・本単元で、タブレット（ロイロノート）を利用したことは、どのような効果があったか。
- ・本児が生き生きと取り組む自立活動は、どのようなものが考えられるか。

8. 指導の実際と考察

(1) 興味関心に基づいた課題設定 ～視点1に関わって

本児が興味・関心をもっている恐竜を中心課題にした単元「きょうりゅうじてんをつくろう」は、ほぼ1学期をかけて取り組んだのだが、学習意欲は長期間でも持続し、本児が満足のいく発表をすることができた。

はじめに、本児の知っている恐竜について質問をしながら時間をかけて話を聞いた。そこでは、多数の恐竜の名前だけでなく、その体型やえさ、生息年代など、まるで事典を暗記しているかのような話しぶりであった。本児は、じっくり話をすることができる楽しさや質問されたことに的確に答えたことをほめられる喜びを感じながら、安心して会話を進めていた。

つぎに、本児が話した内容を絵に描いてもらい、さらに話題を広げた。その絵を見ながら「これは、事典のようだね。こんな絵を集めて、事典にしてみない？」と投げかけた。そして、ロイロノートでサンプル作品を提示した。サンプルは製作過程も見せながら提示したので、本児は、その手軽さと見栄えのおもしろさに興味を示し、事典づくりにやる気を見せた。また、本児はタブレット端末を家庭でも扱っており、その操作に抵抗がなかったことも興味をもたせた要因であったと思われる。

実際に取りかかると、ロイロノートでのカード作りが、本児が思う以上に簡単にできるので、夢

中になって楽しんでた。そこで、「こんなにいいものができるなら、1組（交流学級）で7月くらいに発表してみない。みんなが驚くよ。」と発表を促した。それで、本児は、「うん、やってみる。」とがぜんやる気を示し、さらに意欲的に取り組むようになった。

このように、本児の興味・関心をもとに単元を設定し、本児の取組の様子を評価しながら課題を設定したことで、自分から進んで学習に取り組む意欲を喚起することができたと思われる。

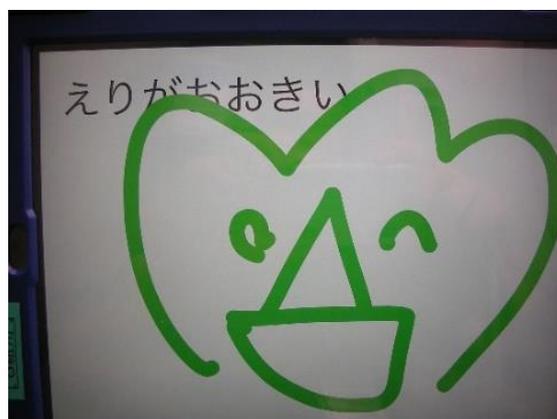


本児が描いた恐竜の絵

(2) マトリックスによる思考の整理 ～視点2に関わって

本児は、「トリケラトプスは、えりがあって大きい。それで、白亜紀に住んでいました。肉食恐竜より強かったんだって。」という話し方をしていた。そこで、「それじゃあ、名前、時代、食べ物、特徴ということを書くといいね。」と言って、カードにする項目を示して、事典作りに取りかかった。

本児は、ロイロノートのお絵かき機能が気に入って、恐竜の絵を4種類くらい続けて描き、その後、時代や特徴などのカードを作るような、気分によって方向が違う取り組み方をしていた。そして、



本児に示したカードのサンプル

ある程度取り組んだところでできたカードをつなげてみた。そうしたら、抜けているカードがあることや調べないとわからない項目があることに気がついた。そこで、わからないことについては、図書館の事典を調べてカードを作った。そして、「きょうりゅうじてん」で作るカードをマトリックスで整理した。事典にしたい恐竜の名前と知らせたい項目（名前・絵・時代・大きさ・食べもの・特徴の6項目）のマトリックスを作って学習を進めたら、「今日は、ステゴザウルスの食べものを書くときステゴザウルス(の紹介)ができるね。」などと言うようになり、完成の見通しをもって効率的に事典を作成できるようになった。

また、このマトリックスによる事典を完成させるためには、カード数が多くなり、時間がかかることも気がついた。そこで、7月の発表に間に合わせるためにはカードにする恐竜を絞る必要があるという時間的な見通しももつようになった。

ところで、1学期の本児の話し方は、やや冗長的になっていたが、2学期あたりから筋道だった話し方をするようになったり、聞かれたことに的確に答えたりする様子が多くなってきた。このことは、本単元で培った力が活かされてきたのではないかと推察される。

(3) ICT 活用について～視点3に関わって

本単元では、ロイロノートを使って45枚のカードを作成した。1項目で1カードを作っていたので、カード数は多くなったが、ロイロノートは、リンクの貼り付けや背景色による分類が簡単なアプリである。そして、カードを事典のように整理したり、同じ項目をつなげて、クイズのように提示したりできるので、本児もカード整理の抵抗が少なく、楽しんで取り組んでいた。

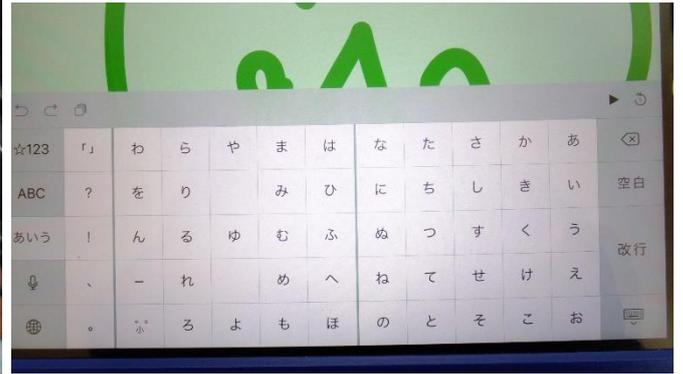
また、かな入力ボードを使ってカードを作ったので、まだ、手書きによるかな表記に抵抗の多い1年生のこの時期の負担を軽減することができた。

きょうりゅうじてん						
じてんをつくって1くみにしょうかいしよう						
	なまえ	え	じだい	おおきさ	たべもの	とくちょう
トリケラトプス		②				
ティラノサウルス	②	②	②	②	②	②
ステゴサウルス	②	②	②	②	②	②
ブラキオサウルス	②	②	②	②	②	②
サウロファガラクス			②		②	
アロサウルス						
チュラトサウルス						
サウロベルタ						
マンティロサウルス						
プテラノドン	②	②	②	②	②	②
ミンミ	②	②	②	②	②	②
スピノサウルス	②	②	②	②	②	②
コエロフィンシス	②	②	②	②	②	②
シーラカンス	②		②			

きょうりゅうじてんのマトリック



ロイロノートを使って



かな入力ボード

(4) 成果と今後の課題

完成した「きょうりゅうじてん」は、7月に交流学級で発表した。「ぼくのお気に入りの恐竜は、ミンミです。ミンミは白亜紀に住んでいました。体じゅうがよろいできています。」などと、カードをタップしながら分かりやすく話し、聞いた児童は「へえ、よく知っているね。」「よく（カードを）作ったね。」と感心していた。また、「この絵の恐竜は何でしょう。」と絵を提示し、カードをタップして「ヒント1、三畳紀に住んでいました。」「ヒント2、大きさは約3メートルです。3メートルは教室から廊下くらいまでの長さです。」「答えは、コエロフィンシスです。」というようなクイズも出した。児童は、「おもしろい。」「それで、肉の絵があったんだ。」などと本児の出すクイズを楽しんでいた。振り返りで本児は、交流児童の好意的な反応に喜んで、また、何らかの発表をしたいと思うようになった。これまでの取組に達成感を感じ自信を深めていった場面であった。



交流学級で「きょうりゅうじてん」の発表

本児が興味関心をもっていることを手掛かりに学習を広げ、深める取組の効果が認められた実践であったと言える。

今後も本児に寄り添い、本児の可能性を広げる単元の開発を試みていきたい。そのために、本物や実物と関わった豊かな体験を数多く積み上げ、本児の興味関心の幅を広げていくことが大切であると考えます。